

2010年11月15日

演習活動

- 1) 7:30~11:00 ナミブ砂漠の自然観察
- 2) 15:00~16:00 ゴバベップの施設、気象観測などを見学
- 3) 20:00~21:00 クイセブ川沿いの野生動物観察

1)

演習タイトル：Nature walk through gravel plains, Kuiseb riverbed, and dunes.

講演者：Mr. Filip (Gobabeb Training and Research Centre)

キーワード：ナミブ砂漠、クイセブ川、自然地理

要約

本演習は、Gobabeb Training and Research Centre にインターン生として所属しているドイツ人の Filip 氏によって、クイセブ川流域に位置する Gobabeb 周辺で行われた。内容は、ナミブ砂漠の自然地理についての基本的な知識を自然に実際に触れ、観察しながら習得するといったものであった。

Filip 氏によると、ナミブ砂漠は約 8000 年前に生まれた世界で最も古い砂漠である。砂丘の砂は、石英（せきえい）のみで構成され、きれいなオレンジ色をしている。河床の砂は上流から運び込まれた黒雲母、シルトと石英で構成されているため白っぽい色をしている。クイセブ川流域では主に以下の植物を観察し、植物の特徴・利用法・クイセブ川流域に暮らす牧畜民トップナールの人びとの生活様式などを学ぶことができた。

・ *Acacia erioloba* (通称 キャメルソーン)

南部アフリカに広く分布している高木。飢饉のとき、トップナールの人びとはそのさやの果肉を食べ、焼いた種をコーヒーの代用品として利用する。

・ *Faidherbia albida*

高木。昔はアカシア・アルビダと呼ばれていた。幹が白い。その葉やさやは、トップナールの人びとの家畜の食料として重要である。

・ *Salvadora Persica* (通称 マスタードツリー)

歯を磨くための木材として、人びとに利用されている。赤い実をつけ、その実は、鳥のえさやジャムなどの食用として利用される。

・ *Nicotina*

外来種。原産地はアルゼンチン。一年草。黄色の花を咲かす。有毒なため、やぎな

どの家畜は食べない。水を吸水するため、増えすぎると困る。

・ *Acanthosicyos horridus* (通称 ナラ)

ウリ科の植物。長く伸びる根によって、深い地下水から水を吸収しており、トップナールの人びとの重要な水分源となっている。食用だけではなく、その種は採油用に町で売られ、トップナールの人びとの重要な現金獲得源にもなっている。

2)

演習タイトル：Station tour, discussion of appropriate technology at Gobabeb.

講演者：Mr. Alex (Gobabeb Training and Research Centre)

キーワード：Gobabeb Training and Research Centre、砂漠、持続可能な発展、テクノロジー、

要約

本演習は、Gobabeb Training and Research Centre にインターン生として所属しているドイツ人の Alex 氏によって、Gobabeb Training and Research Centre で行われた。内容は、施設のなりたち及び、施設で使用されているさまざまなテクノロジーについての説明であった。

Gobabeb Training and Research Centre は、砂漠地域における持続可能な発展を促進するためのさまざまなテクノロジーを実際使用し、研究している。また、環境、文化、社会、経済的な文脈に適したテクノロジーを促進している。

実際に、水を再生して利用するシステムや、太陽光エネルギーを利用したオーブン、などを見学させていただいた。



参照

http://www.gobabebtrc.org/index.php?option=com_content&view=article&id=59&Itemid=61

(報告者：南 佳枝)